

西洋美術史ゼミ第十七回補足資料

語釈

- パフォーマンス

「芸術家の身体表現」と広く定義されるパフォーマンスは、現代美術における表現形式として重要なものである。ダンスやバレエといった従来の身体表現と異なる点は、行為者がアーティストであることと、アーティストが「作品」になることで心身二元論的な「主-客」（作品が客体、鑑賞者が主体）の対立を超えうることである。ダダイストのトリスタン・ツァラらによる同時進行詩（Simultaneist poetry、英語、フランス語、イタリア語で同時に詩を朗読し、あえて意味不明な詩に変えてしまうというパフォーマンス）がその起源（の一つ）とされる。個人的な経験として、「TOKYO 2021 美術展」における飴屋法水の「ただ座って動かない」パフォーマンスが非常に緊張感のある空間を生み出しており、衝撃的だったことを覚えている。

参考：<https://twitter.com/ynytk/status/1179801291049947137>

- レディメイド

デュシャンは大量生産された既製品を用いた自らの作品を「レディメイド」と名付けた。この言葉は広くは既製品のことを指す（オーダーメイドの反対語と考えればわかりやすい）が、彼は「当初の目的とは違った使われ方をされた既製品」のことを主に指しており、この概念は「手仕事であること」の価値に疑義を呈し、この点で「反芸術」であった。

- フォトモンタージュ

写真を切り貼りしてコラージュしたり、二重露光させたりして、写真イメージを合成する技法をフォトモンタージュと呼ぶ。この技法の特徴は、複数のイメージを合成（モンタージュ）することで単一のイメージから得られない視覚言語を創造できるということである。この特性により、プロパガンダなどにもよく用いられた。

- アウラ

複製技術によっていくらかでも作品のコピーを作ることができるようになった時代に、オリジナルとコピーの差異を考えたヴァルター・ベンヤミンという思想家がいた。彼は複製作品には「アウラ（オーラ）」が欠落するとした。この概念の詳細は今日でも議論が分かれるところだが、大まかには「作品を見るときに感じる畏怖や崇敬の感覚」とされ、コピーが作られることで作品を見る際の一回性が弱まり、この感覚を失わせるという論理である。アウラは伝統性と固く結びついたものであるため、ベンヤミンは映画といった非アウラの芸術を歓迎した。

発表の補足

- スライドのレイヨニスムの画像について

下のリンクから同じページが見られます。

https://en.wikipedia.org/wiki/File:Larionov_red_rayonism.jpg

- オートマティスムについて

シュルレアリスムが行った手法でオートマティスム（自動記述）というものがある。アンドレ・ブルトンによる実践は、半ば眠って意識朦朧とした状態で原稿用紙に文字を描き続けるというもので、これにより無意識を表出させようとした。ミロの絵画も同様の目的があった。

- シュルレアリスムの技法について

シュルレアリスムはオートマティスムやデペイズマン以外にも様々な手法を編み出した。多くの人は美術の授業などで一度は学んだ経験があると思われるが、これらの技法は比較的最近に発明されたものであったのだ。

- コラージュ

新聞の切り抜き、壁紙、写真や布などを組み合わせることによって、偶然性によって驚きや詩的イメージが生み出される。

- フロッタージュ（こすり出し）・グラッタージュ（削り出し）

フロッタージュは板や石に直接紙を当てて、その凹凸を鉛筆などでこすり出す方法である。この応用であるグラッタージュは、鉛筆を絵の具に、紙をキャンパスに置き換えたもので、キャンパスにあらかじめ絵の具を載せておき、その裏側から物体を押しあて、キャンパスを押さえながら絵の具を削り取る。グラッタージュは文章では少々説明しづらい技法なので、以下の動画を見るのが分かりやすいだろう。

<https://www.youtube.com/watch?v=CuPG56xWdJw>

- デカルコマニー

二つ折りにした紙に絵の具を入れ、再び紙を開いて偶発的な模様を得る。

- 優美な屍骸

これは絵画と文学の両方において行われた共同制作である。文学においては品詞を、絵画においては紙のつなぎ目の印だけを決めて、各人が選んだ単語や絵を組み合わせるといった技法であった。「優美な屍骸」という言葉は、5人がそれぞれ選んだ言葉を組み合わせてできた「優美な屍骸は新しい葡萄酒を飲む (Le cadavre / exquis / boira / le vin / nouveau)」によるものである。

参考文献

1. 空間における連続性の唯一の形態, Wikipedia, 2022年8月2日,
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%BA%E9%96%93%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E9%80%A3%E7%B6%9A%E6%80%A7%E3%81%AE%E5%94%AF%E4%B8%80%E3%81%AE%E5%BD%A2%E6%85%8B#cite_note-journal-3
2. 社会主義リアリズム, Wikipedia, 2022年8月3日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E4%B8%BB%E7%BE%A9%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0>
3. シュルレアリスム, Wikipedia, 2022年8月4日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%AB%E3%83%AC%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%A0>
4. アール・デコ, Wikipedia, 2022年8月7日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%87%E3%82%B3>
5. バウハウス, Wikipedia, 2022年8月7日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%82%A6%E3%83%8F%E3%82%A6%E3%82%B9>
6. アメリカン・シーン, artscape, 2022年8月7日,
<https://artscape.jp/artword/index.php/%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%B3>
7. フリーダ・カーロ, Wikipedia, 2022年8月7日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%80%E3%83%BB%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%AD>
8. ディエゴ・リベラ, Wikipedia, 2022年8月7日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A8%E3%82%B4%E3%83%BB%E3%83%AA%E3%83%99%E3%83%A9>
9. メキシコ壁画運動, Wikipedia, 2022年8月7日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%82%B3%E5%A3%81%E7%94%BB%E9%81%8B%E5%8B%95>
10. ダダによる芸術の解体運動, ポップの世紀, 2022年8月7日, <http://zip2000.server-shared.com/1918.htm>
11. パフォーマンス, artscape, 2022年8月7日,
https://artscape.jp/dictionary/modern/1198429_1637.html
12. レディメイド, Wikipedia, 2022年8月7日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%89>
13. フォトモンタージュ, artscape, 2022年8月7日,
<https://artscape.jp/artword/index.php/%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%88%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%A5>

14. 複製技術時代の芸術, Wikipedia, 2022 年 8 月 7 日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A4%87%E8%A3%BD%E6%8A%80%E8%A1%93%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%81%AE%E8%8A%B8%E8%A1%93>
15. オートマティスム, Wikipedia, 2022 年 8 月 7 日,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%9E%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9%E3%83%A0>